

アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計

1 対象（実施を想定する学校・児童生徒の概略）

知的障害特別支援学校 中学部 9名

言葉のやり取りが成立する生徒が7名、教師の口頭での指示を概ね理解できる生徒2名で構成されている。

作業学習に対する意欲は高く、やることが分かると自分から準備や片付けに取り組んだり、手順や規格に合わせて製品を作ろうとしたりすることができる。反面、やることが分からないときや何らかの原因で不安になったとき、製品が上手く作れなかったときなどはその場で動けなくなってしまうことがある。

2 教材のねらい（単元としてのねらい、単元の中の位置づけ、生徒に期待する学習など）

単元名「きれいなコースターを作ろう！」（作業学習 木工班 全9時間）

単元のねらい：作業を始めるために必要な道具や資材を自分から準備したり、片付けたりすることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

手順表を見たり教師のアドバイスを受けたりしながら、道具や機械を安全に正しく使うことができる（知識・技能）

手順に沿って作業を進めることができる（知識・技能）

良品を作るためのポイントを自分で考えたり、見本と比較したりしながら規格に合う製品（材料）を作ることができる。（思考・判断・表現）

本時のねらい：自分から準備や片付けに取り組むことができる。（主体的に学習に取り組む態度）

道具や機械を正しく安全に使い、手順通りに作業を進めることができる。（知識・技能）

製品の出来栄を自分で評価したり、決められたタイミングで教師に報告・相談したりすることができる。（思考・判断・表現）

3 授業の展開（本時：8/9時間）

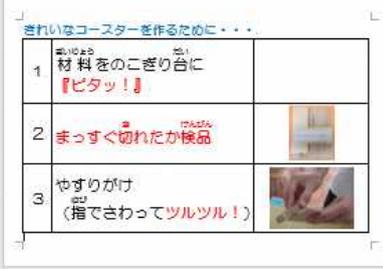
		時間配分
解決したい課題や問い	どうしたらお客さんが喜ぶ製品（＝きれいな製品）を作ることができるかな？	導入 (10分)
授業開始時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分の担当と作業内容を、掲示物で確認しよう。①③ 手順どおりに進めるために（きれいな製品を作るために）、〇〇に気をつけよう。① 自分から準備や片付けに取り組もう。③ この製品（材料）の良さは何だろう。〇〇に気をつければそうなるから、やってみよう。② 	

考えるための材料A	考えるための材料B	考えるための材料C	展開1 (40分)
<ul style="list-style-type: none"> 目標を作業日誌に記入する。 目標を達成するための具体的なポイントを、教師と一緒に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業工程ごと、手順表を活用する。 手順表に報告のタイミングを明記する。 	<ul style="list-style-type: none"> 製品の出来栄を自分で評価できるよう、見本を手元に置く。 チェックリストで検品する。 	
想定される活動	想定される活動	想定される活動	
<ul style="list-style-type: none"> 前は〇〇ができなかったな。今回は〇〇になるようがんばってみよう。 前は〇個できたから、今回は〇個作れるようにがんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業の順番を間違えないように、手順表を見ながらやろう。 できた！先生に見てもらおう！ 上手くできないな。どうすればいいのかな。先生に相談しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 見本と同じになったかどうか比べてみよう。 これは上手くできたかどうか分からないな。先生に見てもらおう。 	
教師の押さえ	教師の押さえ	教師の押さえ	
<ul style="list-style-type: none"> 目標は具体的かつ生徒が分かる表現になるように留意する。 達成可能な目標になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が使いやすい手順表になっているかどうか。 質問に対しては、直接答えを伝えず、生徒が自分で考えるようヒントを与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 見本はきれいに作るためのポイントが視覚的に分かるようにしておく。 自信を持って良品と言えるものと、そうでないものを分けて報告する。 	

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）		展開2 (30分)
<ul style="list-style-type: none"> どうすればもっと上手に切ることができるかな。 これは良品か不良品かの判断が難しいな。先生に聞いてみよう。 パーツができたぞ。次の工程を担当する友達に渡そう。 上手にできたぞ。次もがんばろう！ 		

学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> 作業日誌を活用し、本時の目標が達成されたかどうかの自己評価をする。教師からの評価も聞く。 がんばったところや上手にできたことを自分で認めたり、教師や友達に伝えたりする。 設定した目標を達成したことで、次回の作業もがんばろうとする気持ちをもつ。 	まとめ (10分)
授業終了時に想定される児童生徒のあらわれ ①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ① 材料を切るまでの準備を正しく行い、規格に合うパーツをのこぎりで切り出すことができる。 ② 自分の仕事の出来栄を検品ツールで評価し、その結果に応じてどこを改善すればより良い製品を作れるのかを自分で考えたり、教師からアドバイスを受けたりする。 ③ 班としての目標を生徒全員で共有し、製品作りを分業化することで、自分や別の工程の友だちの役割を意識し、規格に合う製品（＝きれいな製品）を作ろうと自ら努力することができる。 	

アクティブ・ラーニングによる授業実践記録

解決したい課題や問い	
 <p>作業の前後でポイントを確認</p>	<p>○解決したい課題を提示した場面について</p> <p>「もらった相手に喜んでもらうためには、きれいなコースターを作る必要がある」ことを班全体で共通理解した上で、のこぎりチームとしてどのように対応すべきかを、教師と一緒に考えたり、ポイントを提示したりした。</p> <p>★課題についての教師の評価</p> <p>ポイントと製品の出来栄への因果関係を、生徒に分かるように伝えることができた。作業の目的と内容が明確になり、意欲向上につながった。</p>
考えるための材料	
 <p>検品の様子</p>	<p>○考えるための材料を活用しながら学習に取り組んだ場面について</p> <p>検品では、材料を検品ツールに合わせ、4隅が90度になっているかどうかの検品に自分から取り組み、規格に合う・合わないに応じて「○×？」の3種類に分別し、教師に報告することができた。</p> <p>★材料についての教師の評価</p> <p>検品ツールにその目的を表記したことで、意識が高まった。僅かなずれをどう評価するかが曖昧になってしまったため、評価基準やツールそのものを見直したいと感じた。</p>
対話と思考	
 <p>補助具を固定する様子</p>	<p>○対話や思考した場面の様子について</p> <p>準備の場面では手順表を参考に試行錯誤し、自力で解決できないことは自分から教師に助けを求めることができた。生徒2人で1つの机を共有したことで、友達の様子が次にやることの手がかりになったり、足りない道具に気づき自分から揃えたりすることにつながった。</p> <p>★対話や思考の場面についての教師の評価</p> <p>生徒同士で会話をすることが難しい場合でも、作業の場を共有することで、互いに教え合い、学び合う場を設定することができる。</p>
学習の成果	
 <p>のこぎりチームの振り返り</p>	<p>○学習の成果を実感した場面の様子について</p> <p>準備から片付けまで自分から取り組めた。終礼の場面で作業量や製品の出来栄を紹介した際に、「きれいに切れた！」と笑顔で友達に紹介する様子が見られた。友達の発表もよく聞いていた。</p> <p>★学習の成果について教師の評価</p> <p>「きれいなコースターを作るためのポイント」を作業日誌に明記し、毎回それらの視点から学習評価ができるようにさせていきたい。</p>

アクティブ・ラーニングの視点による授業実践を振り返って(もう一度同じ授業を行うとしたらどこを改善するか)

○成果と課題

仕事の出来栄を正確に分かりやすく自己評価し、自分から発信することで達成感や製品理解の深まりにつながるという仮説に基づき実践した。そのような成果を確かに実感することができたが、生徒同士のつながりをもっと大切にしたり工夫したりすることで、自分の役割が明確になり、意欲を引き出すことにつながると感じた。製品作りに知識や技能を発揮する時間と、友達同士で考え、認め合い喜び合う時間をバランスよく設定したい。